

平成25年度第1回長崎県観光審議会 会議結果

1. 日 時 平成25年12月20日(金) 14:00～16:00
2. 場 所 長崎県美術館 ホール
3. 出席者 安徳会長、山下(信)副会長、高田委員、高松委員、納富委員、丸山委員、山下(寿)委員、児島委員、福井委員
4. 議 事
 - (1)市町観光地づくり実施計画について(議案)
 - (2)市町観光地づくり実施計画の取り組み状況について(報告)
 - (3)長崎県観光振興基本計画の実施状況(平成24年度分)について(報告)
 - (4)平成25年度長崎県観光施策について(報告)
5. 審議結果 島原市から提出された市町観光地づくり実施計画について、原案のとおり承認
6. 主な意見 別添のとおり

平成25年度第1回長崎県観光審議会(主な意見)

項目	意見	事務局説明
1. 市町観光地づくり実施計画及び重点支援地区(分野)について(島原市)		
	<p>・目標の中で入込数や宿泊数だけではなく、消費額を上げていこうということが具体的に目標として設定されている。目標達成するための手段としての実施事業は、どういう風に検討しているのか。</p>	<p>(島原市) ・歴史やグルメ、湧水をテーマにした散策や体験をしながら、できるだけ滞在時間の延長を図るとともに、現在、無料体験で行っているものから少しずつ利用料を徴収するなどのお金が落ちる仕組みを検討している。</p>
	<p>・目標数値を実現していこうとするなら、ブレイクダウン(分析)をきちんと考えた方がよい。滞在時間が長くなれば、消費額がどれくらい違うのかをきちんと把握して、戦略を立てて、目標達成できるようにしていく。また、きちんと戦略になるように滞在時間や消費額など係数を含めて計画を立てていった方が、より効果が上がるものになると考える。</p>	
	<p>・雲仙普賢岳は、災害で多くの方が亡くなり、全国ニュースにもなった負の遺産だが、現在はプラスの遺産として観光に役立てられているということ、アピールした方がよいのではないか。 ・熊本のかまモンがキャラクターひとつで、普通の商店街に人がくるようになったということを考えると、地元でそういうキャラクターを作れるのではないかと。 ・市単位ではなく、島原半島全体でコラボレーションして、代表的なパッケージツアーみたいなものを作って、発信していただきたい。</p>	<p>・情報発信は非常に重要であり、県としても今年予算を大幅に増額し、取り組んでいるところである。まだまだ関東や関西のお客様は、伸びしろがあるという風に思っているので、積極的に情報発信を行っていく。また、市の区域を越えた連携も、非常に大事だと思っているので、いただいたご意見を受け止めて考えていく。</p>
2. 長崎県観光振興基本計画の実施状況について 3. 平成25年度長崎県観光施策について		
	<p>・クルーズ船が日中関係の悪化で来なくなったが、今後回復に向けた、具体的な施策を検討しているのか。</p>	<p>・新しい市場として、台湾からクルーズ船を誘致しようと考えている。九州運輸局や福岡、鹿児島、宮崎と協力して、旅行会社を誘致したり、船会社をこちらに呼んできてもらうよう働きかけている。 また、中国発着便で使っていた船を利用し、日本人を乗せて韓国まで運航するクルーズの誘致を積極的に働きかけている。</p>

平成25年度第1回長崎県観光審議会(主な意見)

項目	意見	事務局説明
	<p>・福岡空港にオランダのKLMが就航したが、ハウステンボスは、日蘭友好の素材の一つとしてオランダなどからの誘客に寄与すると考える。</p>	<p>・今年から週3便就航しており、ヨーロッパから長崎(特に雲仙)への観光客が増えてきている。来年は週4便に増えるため、インターネット等を通じた情報発信をしっかりとっていく。</p>
	<p>・しまとく通貨の利用について、夜になると店が閉まってしまう、使いようがないという話を聞いた。しまとく通貨を発行するだけでなく、島全体でどうおもてなしをして、お客様に消費してもらうかを考えていただきたい。</p>	<p>・島全体でおもてなしをして、島で消費していただける形を実現していきたいので、今後力を入れてやっていく。</p>
	<p>・おもてなし総運動でおこなう「おそうじさるく」に参加しているが、なかなか裾野が広がらないし、地元の企業もあまり参加していない。地元の方がこのまちに住みたい、働きたいということを考えながらのまちづくりが必要であり、もう少し裾野を地元の方や企業にも広げていくことをやっていただきたい。</p>	<p>・おもてなしは、総おもてなし運動推進会議を立ち上げ、民間の方にトップになっていただく形で推進しているが、会議の中でのご意見を加え、実際に活動につながっていくようにしていきたい。</p>
	<p>・長崎は交通網が整備されていないので、端から端まではとても遠く感じる。交通網を整備していけば、観光客が増えてくると思う。</p>	<p>・交通網の整備は非常に重要と認識している。県内周遊促進による滞在時間の延長を目指すという面からも重要と考えている。そのため、島原半島を経由する、長崎～熊本間の定期観光バスの運行支援や、公共交通機関を利用した県内周遊を促進するためのパンフレットの作成、配布などに取り組んでいる。</p>
	<p>・県外や国外からの観光客を考えているが、地元の人が、地元で観光できるという視点に立つことも大切と考える。地元の人が、地元で観光をして地元にお金を落とすような、施策を考えた方がいいのではないかなと思う。</p>	<p>・県民向けに県内旅行を促進して、県内消費、県民所得の向上につなげるため、県内の観光地を県民の方に情報発信するとともに、宿泊施設等にも、県民向けのお得なプランを提供してもらうなどの事業を行っており、引き続き力を入れていきたい。</p>

平成25年度第1回長崎県観光審議会(主な意見)

項目	意見	事務局説明
	<p>・外国船籍のクルーズ船が日本発で運航される場合、カボタージュという制限があり、外国に一度寄港する必要がある。寄港地として多いのが、釜山や台湾の基隆であるが、場合によっては、そこで、日本人のお客様を降ろし、航空機で帰国してもらい、韓国や台湾のお客様は、今後、クルーズの対象として有望と思われるので、中国中心の集客から、少し幅を広げた方がよいのではないか。</p>	<p>・台湾は誘致をしており、来年、5回前後ぐらいは入ってくる見込みがある。韓国についても、来年は、韓国の旅行会社がチャーターをするものが入ってくるという情報が入っている。カボタージュの話があったが、日本人を乗せたクルーズが、釜山に入った場合、次に帰ってくるのは博多か長崎が大体候補になる。中国人の場合だと博多で買い物をしたいという需要があるため、博多が優先されるが、日本人の場合、観光を中心に考えるので、ほとんど長崎に寄港する。そこが、日本人向けのクルーズが私たちの一番の優位性と考えている。</p>
	<p>・海外からクルーズが入港する場合、入国審査の問題がある。他国では、その次に寄港する国の入国審査官が前の港から乗り込んで、船内審査するが、日本の場合は着いてから審査するので、何千人もの乗客がいる場合、降りただけで時間がかかる。従って、外国船を誘致するにあたっては、CIQ(税関・出入国管理・検疫)との連携をかなり強化していかなければならないが、取り組みはどうなっているのか。</p>	<p>・従来、長崎港松ヶ枝ターミナルの入国審査ブースは10ブースしかなかったが、昨年、第2ターミナルを作り、20ブースで審査できるようになっている。その結果、ヴォイジャー・オブ・ザ・シーズのような3,800人クラスの船で、90分でほぼ審査が終わるという状況である。ただ、それでも韓国に比べれば、まだまだ遅いという話もあり、今後も、しっかりと国に要望していく。</p>
	<p>・「食と観光の融合に関する観光拡大推進事業」について、3ヵ年ほど継続して実施されていると思うが、各エリアごとに、今まで取り組んでこられたキャンペーンで、食と観光の拡大というのは本当にできているのか。例えば、各エリアごとにメニューを新しく考えたりしてきた中で、それが確実に定着してきているのか。また、観光消費額の話があったが、その中で飲食にかかわる消費額がどれくらいなのか。</p>	<p>・食の定着化について、平成23年から、各地域で地域フェスタという形で、いろいろキャンペーンをやっている。一つの定着の事例として、例えば大村市では、食のイベントを毎年9月に開催するようになっているが、食のイベントを開催するだけでなく、域外からの観光客を誘導する形で情報発信し、成功しており、今後も行政やコンベンション協会などが一体となって、継続していく。その他、平戸の和牛フェアなど、各地域の特色を活かした形でイベントを開催している。 飲食に伴う消費額については、現在把握していないため、今後、市町と一緒に、消費額を含めた成果の把握に努めていきたい。</p>
	<p>・昨年の和牛共進会で長崎が1位をとり、長崎牛ということで売り出していると思うが、「出島ばらいろ」の良さを力説される方が多い。まずは、長崎牛という形で裾野を広げ、その中で高級な和牛のジャンルがあるという風な形で押し進められたらどうか。</p>	<p>・いろんな地域に個別の銘柄牛がそれぞれ存立しているのは事実である。また、各単協、各JAさんがそれぞれ自分のところを大事にされる思いで、個別のブランド名をつけられている。県や全農ながさきもそうだが、全体としては、長崎和牛で売り込んでいきたい。</p>